

神戸市新型インフルエンザ等対策行動計画有識者会議（第4回）

議事要旨

1. 日 時：令和7年11月5日（水）13:30～14:30
2. 場 所：神戸市役所4号館1階 本部員会議室（対面とオンラインのハイブリッド開催）
3. 参加者：宮良会長、柏樹委員、倉本委員、下田委員、高橋委員、田中委員、土井委員、秀委員（オンライン）、紅谷委員、松梨委員（オンライン）、松端委員、安田委員

4. 議事概要

事務局から、「新型インフルエンザ等対策行動計画の改定」について、資料に基づき説明を行い、委員間との意見交換を行った。委員からの主な意見は次のとおり。

（○委員 ●事務局）

- これまでの有識者会議での内容が十分反映されているので、異論はない。
- 計画に異論はないが、感染症対応は計画どおりに進むとは限らない。対応の実効性を高めるためには、府内の様々な部局が協力し、市全体で取り組めるような訓練を定期的に実施することが必要である。また、感染症発生時にリーダーとなれる人材を育成していただきたい。
- これまでの意見が反映され、良い計画になったと思う。計画を実際に使えるものにするためにも、訓練は必要である。
- 医療機関の情報共有ではG-MISを使用することになっているが、様々な規模の医療機関で広く情報共有ができるようにする必要がある。また、G-MISで不具合が発生した場合の対応については計画に記載されていないが、今後、この計画をもとに対応できる体制を構築してほしい。
- 健康局、危機管理局、医療機関の代表者が集まり、パンデミック時に動ける体制を平時から構築していれば、より良い対応が可能になると考える。
- コロナ禍から数年が経過し、様々な立場の人が計画について議論できたことは有意義であった。今後、改正が必要となれば、再度集まり対策を蓄積していきたい。
- 訓練を実施することで、さらに問題点を洗い出せる可能性がある。どこにも所属していない高齢者、特に独居高齢者が増えており、そうした方への情報周知や安否確認を行う役割を地域に設けることも重要である。
- 特別養護老人ホームでは現在もコロナ感染者が少しづつ発生している。コロナについては情報があり、感染経路もおおよそ解明できるが、未知の感染症が発生した場合は不安である。まずはこの計画に則って対応していきたい。
- 全体的に網羅された計画になっている。有事の際に計画が機能するよう、施設職員への研修等で周知していきたい。高齢者や障害者、児童保育等の施設や事業所のBCPに今回の計画内容を落とし込めるよう働きかけていきたい。
- 「偏見・差別等や偽・誤情報への対応」が明記されて良かったが、具体的な対応の検討は非常に難しい課題である。大阪大学の研究では、「新型コロナウイルスに感染した人は自業自得か」という質問に対し、日本は他国に比べ「自業自得だ」と答える人が圧倒的に多かった。逆に「本人のせいではない」と

答えた人は他国より少なかった。こうした意識を平時から変えていかない限り、差別や偏見はなくならないと思う。また、パンデミック時には誤情報による混乱は起こりうる。最近、マスコミではファクトチェックを導入し始めているが、ワクチン接種時などに誤情報が広がらないよう、行政と報道機関が連携し、計画的にファクトチェックを実施することを検討すべきである。

○県や市は記者会見等で情報発信しているが、テレビや新聞で頻繁に報道されなければ伝わりにくい。テレビや新聞を見ない層もいる中で、どのようにして市民全体に情報を伝えるのかは大きな課題である。

○病原性やワクチンの状況等、感染症の変化に応じて柔軟かつ機動的な対策の切り替えていくことが重要である。この計画に基づいて対応を進めてもらいたい。

○計画案は良くできている。検疫の水際対策については、厚生労働省から具体的な方法の指示が出るため、その際は早急に関係者に共有し、対策を進めたい。

○実施体制の「2-1. 新型インフルエンザ等の発生疑いを把握した場合の措置」では、市は指定感染症に指定される前から、医療機関に情報提供することを検討すると記載しており、対策の早期検討が明記されたことは良かった。また、早い段階から状況に応じた関係課による連絡会議を開くことの記載や、情報収集・分析では、感染経路等の情報を評価し、その結果を市民へ還元することが記載されていることも良かった。

○防災については、1月17日の震災イベントを通じて記憶を伝える取り組みがあるが、感染症は全国的に発生したため、特別に振り返る機会がない。コロナ対応は大変であったが、今後世代交代により忘れられ、市職員も当時の対応を知らない人が増えることを考えると、庁内でコロナ対応の体験談を継続的に若い職員に伝えることが重要である。新規採用職員研修や係長研修等で年1回は伝える機会を設けてほしい。

●健康局では、コロナが5類になった5月8日に昨年から研修を実施している。コロナを経験した医師や保健師が若い職員に当時の対応を説明し、次回感染症発生時に対応できるよう経験等を継承している。ただ、この研修は健康局内の取組であり、全庁的に実施できるか今後検討していきたい。